

自由

加藤みどり

走っている

ふう、ふう、ふう、と

途切れなく息をしている

胸の奥深くが拍動して

肉体がぐんと前に押し出される

なぜ、走る？

わたしは問う

青い稜線を縫う風が頬を掠める

なぜ、生きる？

もう一度問う

真っ白い太陽が目の端に眩しい

そのとき精神が、問うことをやめる

わたしはそれに気づかない

走る、走る、走る

交互に脚がアスファルトを蹴り上げる

軽い、軽い、軽い

時間は消えたのだ

過去もなく、未来もない

現在という、永遠

永遠という、自由

生命の火を無心に燃やして

永遠なるものに向かい

この自由を生きたい